

まちづくりNews

第1分科会 vol.3

平成26年9月10日

(発行元)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階

TEL/FAX 26-0338

(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

第3回目の第1分科会を開催

第3回の旭川市総合計画市民検討会議第1分科会は、平成26年8月25日(月)に旭川市まちなか市民プラザ会議室2において開催されました。今回も委員11名と職員ワーキンググループ、学生アシスタントがともに熱い議論を交わすことができました。

冒頭に、参加者7名による1分間スピーチを行いました。その後、栗田座長より、これまでの進捗状況と分科会に関連した旭川市の保健医療福祉関係者からのヒアリング内容の情報提供、大石委員から医療と介護の連携に関する連絡シートの取り組みについて情報提供がありました。

今回のテーマ「あさひかわの医療・健康づくり」のディスカッションは、塩川副座長の進行により、職員ワーキンググループから医療の現状と健康づくりの取り組みについて説明を受け、3グループに分かれて検討しました。

医療と健康づくりの目指すまちの姿、それを達成するために必要な具体的提言について、事前に作成していただいた資料に基づき意見集約を行い、グループごとに発表を行いました。

各グループの主な意見は次のとおりです。



Aグループ

目指すまちの姿

市民が創るウェルビーイングシティ

具体的な提言

①私が行う!

- ・感染症の予防を行う
- ・健康を維持する
- ・健康を保ち、可処分所得を増やす
- ・健康診断の必要性を発信する
- ・自分の体験談を伝えていく
- ・現実から目をそらさない(自覚する)

②市民が助け合い行う! 企業や事業所が行う!

《市民》

↑ 相互に受診の声かけを行う

・住民主体の健康への取り組み

↓ (運動・教室・クラブチーム・体験共有等)

《企業》

- ・健康に関する環境の整備
(メンタルヘルス、労働時間、食品)

③市が行う!

- ・制度の周知活動→よりわかりやすく噛みくだく
→健康診断の受診率向上へ
- ・保険料についての情報提供
→若い世代の負担の軽減
- ・健康を意識する場づくり: 労働世代中心に
→身近な地域から始める

【要旨】

市民は、互いに声を掛け合って健康診断を受けること、地域住民主体の健康活動への積極的な参加・取り組みが重要です。

企業は、健康に関する環境整備が求められ、中でもメンタルヘルスの取り組みや労働時間の適正化が必要です。労働時間が安定するとバランスの取れた食事をきちんととることができ健康への第1歩となります。

市は、「制度をよりわかりやすく周知すること」に意見が集中しました。若い世代の負担軽減には何よりも保険料を下げるのが重要であり、労働世代を中心とした保険料の情報提供が必要です。そして、身体面でも精神面でも健康である旭川市を目指していきたいと考えます。



Bグループ

目指すまちの姿

いきいき健康都市あさひかわ

具体的な提言

①私が行う！

生活習慣を変える

- ・食事(内容や食べる時間帯、調理をする)
- ・運動する ・睡眠時間
- ・自分の時間を確保する(ワークライフバランス)

②市民が助け合い行う！企業や事業所が行う！

市民

- ・健康に関心を持つ ・健康診断を受ける
- ・身近な場所で運動する ・コンビニ受診をしない
- ・健康に関するボランティアの参加

企業

- ・ワークライフバランスの推進
(定時退社、休暇が取りやすい)
- ・健康増進のための事業
- ・健康診断後のフォロー

③市が行う！

- ・広報、啓発 ・スポーツイベントの充実
- ・健康診断の充実と、体力測定のお機会と、健康相談(心と身体)
- ・健康に関するボランティアの育成
- ・近隣市町村との連携

【要旨】

目指すまちの姿「いきいき健康都市あさひかわ」は、健康が病気や障がいの有無では判断できないこと、旭川市の医療機関が充実していることに頼りすぎず、一人ひとりが健康意識を高めていけるまちという意味を込めました。

健康づくりは生活習慣が大切ですが、仕事等に追われて時間に余裕がなくなると、生活習慣が崩れ、悪循環を生み出していることも課題になっています。

市民が健康に関心を持つきっかけとして、健康診断を受ける意識を高める周囲の呼びかけ、企業のワークライフバランスの環境づくりが大切という議論がなされました。



Cグループ

目指すまちの姿

健康で安心して暮らせるまち

具体的な提言

①私が行う！

- ・自分自身の健康管理
- ・食生活の見直し
- ・健康診断を受ける

②市民が助け合い行う！企業や事業所が行う！

- ・健康診断を受ける環境づくり
(メンタルケア、ラジオ体操)
- ・地域での声かけ

③市が行う！

- ・生活圏域の設定
- ・市民が参加できる地域の構築
- ・特定健診、がん検診の啓発
- ・官民一体の仕掛けづくり

【要旨】

健康づくりに関する提言として、「一人ひとりが自己管理をする」、「ラジオ体操に参加する」、「できることをコツコツとやる」という意見が多くみられました。

また、身近な「生活圏域」を基盤としながら、生活圏域で健康づくりに取り組める環境整備を行っていくことが効果的なのではないかという意見が出されました。



今回の議論は、委員自身が自らの健康と医療について考える機会となりました。一人ひとりが健康を考える機会を持つことが健康意識を高めていくことにつながります。主な意見として、生活圏域を生かした身近な場での健康づくり、健康資源を担うボランティアへの市民の参加、医療資源を大切に使うこと、企業がワークライフバランスを実現できる環境整備、市は心と身体の健康情報の発信、相談や健診の充実、道北医療の中核を担う旭川市が近隣市町村と連携し保健医療福祉の体制整備を図るなどの意見が出されました。

財政の仕組みは市民にあまり知られていないことも課題であり、市民の健康の向上や病気の重症化予防が医療費削減となり、まちの財政の維持とつながっていることも周知が必要です。これまでの検討で出された、いきいき、安心、笑顔、まちの活力、ウエルビーイングなどのキーワードを参考に福祉と子育て施策の目指す方向性を考えていきたいと思えます。